

「吹幸」第三集の発刊にあたって

東日本大震災から3回目の3月11日を迎えようとしている今、今年度の教育活動のあゆみを振り返るとともに、ご支援をいただいた皆様への感謝の気持ちを届けるため、「吹幸」第三集を発刊することにいたしました。

小原木小学校の置かれている現在の教育環境や、様々な団体等の皆様からいただいた支援に対する感謝の気持ちを、全校児童が各自1ページで心情を書き表したものです。この文集を手にした皆様には、子どもたちの描く夢や希望、またご支援への感謝の気持ちを読み取っていただければ幸いです。

今年度の教育活動の様子を、5点の写真で下に紹介させていただきます。

1 小原木地区の現状



小原木小学校の校庭には、平成23年の8月から30世帯分のプレハブ仮設住宅と自家用車の駐車場がアスファルト舗装で設置されています。

平成25年度は、大沢地区・只越地区の高台において災害公営住宅建設用地の整備が開始され、杉の木の伐採によって景観が少しずつ変化しています。また1月からは、切り崩した土砂を只越漁港付近の地盤かさ上げに使用するため、大型ダンプカーによる搬送も開始されています。

2 「防災教育」の推進



東日本大震災の経験を生かし、今後の地震・津波からの安全避難を確実にを行うため、「親子防災教室」を今年度も6月に実施しました。

特に、通学時間帯での避難を想定した訓練を親子で実施するとともに、自宅にいる場合の安全な避難場所や避難方法についても、各地区の防災安全マップの作成を行い家族での避難場所の指定を行うなど、学校における避難のみならず、家庭や地域での「防災教育」を推進しました。

3 「ふるさと学習」での海の体験学習の再開



震災後、2年間に渡って休止していた5年生の「定置網の網起こし」や、「かきむき体験」等、唐桑地区の特色である「海の体験学習」を今年度によりよく再開することができました。

この海の体験学習は、小原木公民館の強力なバックアップにより行われている「ふるさと学習」で、大沢漁港にある水産会社や唐桑町内の漁業協同組合の協力によって伝統的に実施してきた地域学習です。

4 「支援活動」の数々



「みどりのカーテン」や仮設住宅の方々との花壇の植栽活動や文化芸術公演等の観賞、支援物資や義援金の送付など、今年度もたくさんの支援活動をいただきました。県内外からの温かい思いやりに満ちた支援の数々は、本校の教育活動を大きく支えていただいたことはもちろん、子どもたちや保護者、教職員にとって、震災からの復興に向けて歩みを進める後押しをしてくださるものでした。心から感謝を申し上げます。

平成25年5月にホームページを開設し、日々の教育活動を紹介しています。

是非、アクセスしてご覧ください。ホームページアドレス <http://www.harakko-es.net>



平成26年3月吉日

気仙沼市立小原木小学校長 千葉 哲